

2003年11月27日
 ダイキン工業株式会社
 広報部

＜ダイキン「第4回 現代人の空気感調査」＞
 ～ 主婦500名に聞いた「冬のお部屋の空気と風邪対策」に関する調査結果発表 ～

主婦の8割以上が部屋の空気に 不安を感じている

冬の部屋の空気です気になるのは1位「風邪」、2位「インフルエンザ」、
 3位「ハウスダスト・ダニ」。今年話題の「SARS」も8位に。

ダイキン工業株式会社（取締役社長：北井 啓之）では、このほど、主婦500名を対象として、「冬の部屋の空気と風邪対策」をテーマとしたアンケートを実施しました。

冬は、窓を締め切り、暖房を使用する機会も多く、1年の中で部屋の空気に最も気を配る季節といえます。特に12月は大気汚染物質の濃度が高くなる時期として大気汚染防止月間にも指定されています。

そこで総合空調メーカーのダイキン工業では、冬の部屋の空気環境について、どのような意識を持ち、また、風邪対策も含め、冬場、快適に部屋で過ごすためにどのような工夫をしているかを、女性、特に主婦の方々について調査しました。

「冬の部屋の空気と風邪対策に関する調査」の結果概要は以下の通りです。

「冬の部屋の空気と風邪対策に関する調査」の主な結果

- 8割以上の主婦が部屋の空気に不安を感じている。
 大阪圏（80.0%）より首都圏（88.4%）の主婦の方が不安を感じる人が多い。
- 冬の部屋の空気です最も気を配っていることは「換気」（92.4%）。次いで「埃やチリの除去」（61.0%）など掃除に気を配っている結果に。
- 冬の部屋の空気です気になるものは、1位「風邪」、2位「インフルエンザ」、3位「ハウスダスト・ダニ」。SARS（重症急性呼吸器症候群）も8位に。
- 今や3人に1人が持つ空気清浄機に対して、「細菌やカビの除去」や「インフルエンザ等ウイルスの除去」への期待は年々増える一方、「タバコの煙や臭いの除去」は減る傾向に。
- 風邪の予防対策としては「うがいをする」（84.5%）、「帰宅時に手や顔を洗う」（73.9%）など部屋に細菌やウイルスを持ち込まないようにすることがやはり多い。一方、部屋の空気に関することでは、「換気に注意する」（55.9%）が5割以上となる。
- 空気が乾燥する冬場、20代を中心に約3割の主婦が湿度を意識。湿度調節の方法としては「加湿器をつける」が最も多く、「濡れタオルを部屋にかける」「洗濯物を部屋に干す」なども多くの家庭で行われている。
- 風邪をうつされた場所で多いのは1位「家」、2位「職場」、3位「電車」。
 風邪をうつされた相手が多いのは1位「子供」、2位「夫」、3位「同僚」。

【はじめに】

ダイキン工業は、“空気”にこだわり、また空調の技術を進化させてきた空調のトップメーカーとして、日頃あまり意識されてこなかった“空気”についてもっと多くの方々に関心を持っていただきたいと考え、2002年より“空気”に関する現代人の意識を調査する「現代人の空気感調査」を実施しています。

12月は自動車交通量の増加、ビルや家庭の暖房の影響、更には冬特有の気象条件等により、代表的な大気汚染物質である窒素酸化物（NO_x）の濃度が特に高くなる期間です。このため、環境庁及び公害健康被害補償予防協会では、毎年12月を大気汚染防止推進月間としています。

そこで第4回目となる今回の調査では、部屋の空気が最も汚れやすい冬の時期に、主婦が部屋の空気についてどのように考え、より質の高い空気を得るためにどのような方法を試みているかを捉えてみました。特に、風邪やインフルエンザ対策と部屋の空気環境対策について、その実態を明らかにすることを目的として、500名の主婦（平均年齢45.2歳）を対象にアンケートを実施しました。

(1) 調査対象及びサンプル数

東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）及び大阪圏（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県）に居住する主婦を対象としました。

Web調査登録モニターの中で、居住地および主婦という対象者条件に該当する約12万人にメール配信を行い、500名にて回答受付を締め切る方法で、有効票数528サンプルを得ました。（東京圏318サンプル、大阪圏210サンプル）

(2) 調査方法

Web調査

(3) 調査実施時期

平成15年11月1日～11月5日

(4) 調査項目

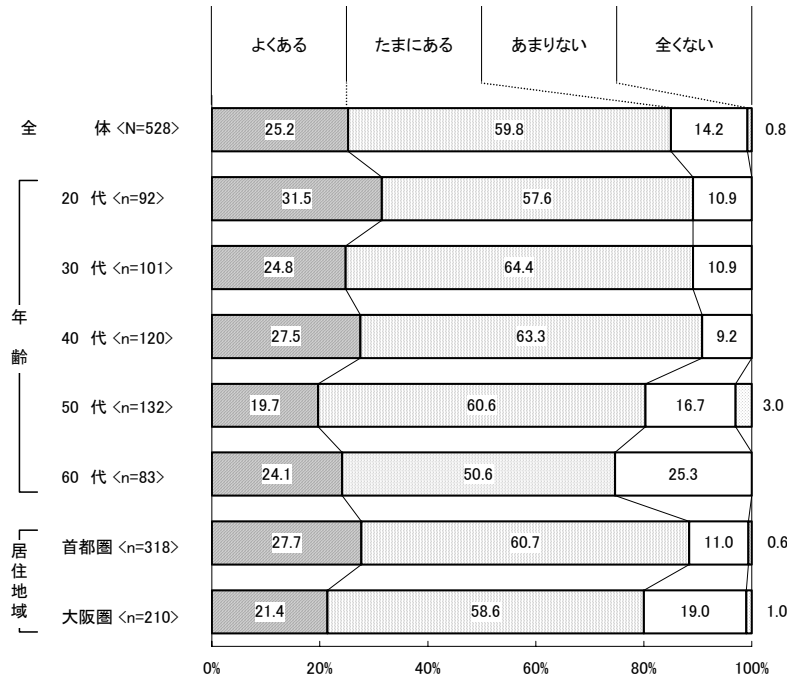
- ・1年のうちで空気が最もきれいだと感じる月と最も汚れていると感じる月
- ・部屋の空気の汚れが気になったり心配になったりするものの有無
- ・冬の季節、部屋の空気について気になるもの
- ・冬の部屋の空気について気を配っていること
- ・冬の空気環境を整えるために使用している空調・暖房機器
- ・家族の中で最もよく風邪をひく人と、風邪をひく回数
- ・昨冬に風邪をひいた経験と風邪をひいた原因
- ・風邪がはやっている時期の予防対策としていること
- ・風邪をひいた時にしていること
- ・風邪対策として冬の部屋の湿度をどの程度意識しているか
- ・家では空気清浄機を使っているか、空気清浄機の使用台数・設置場所・購入時期は
- ・空気清浄機に期待する機能

「冬の部屋の空気と風邪対策」に関する調査 結果概要

◆日頃、部屋の空気の汚れが気になったり心配になったことがあるか？

「たまにある」(59.8%)がほぼ6割を占め、「よくある」(25.2%)を合わせると、8割以上の主婦が部屋の空気に不安を感じている結果になりました。

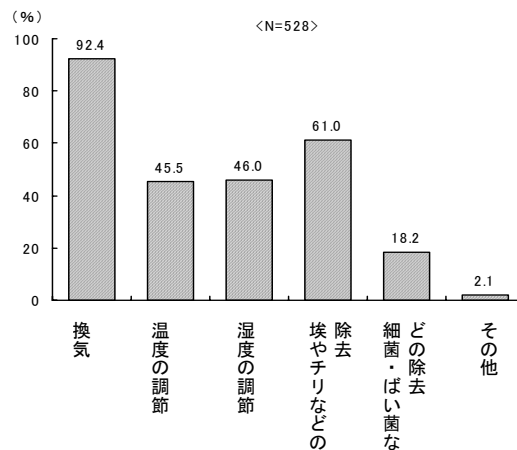
年代別でみると、空気の汚れが気になったことが“ある”のは20代~40代で高く、特に40代では約9割が部屋の空気の汚れを気にしており、また、居住地別にみると、大阪圏(80.0%)に比べ首都圏(88.4%)の主婦の方が空気の汚れを気にしている結果となりました。



◆冬の部屋の空気についてどのようなことに気を配っているか？

9割以上が「換気」(92.4%)をあげており圧倒的となっています。次いで「埃やチリの除去」(61.0%)となっており、やはり冬は多くの主婦が掃除に気を配っている結果となりました。以下、暖房器具や除湿機などを使った「湿度の調節」(46.0%)、「温度の調節」(45.5%)も半数近くがあげています。

一方、「細菌・ばい菌などの除去」(18.2%)は、次項にあるように“ウイルスや細菌”について多くの主婦が気になっているにもかかわらず、その対策については実際に行われていない結果となりました。



◆冬の季節、部屋の空気で気になるものは何か？

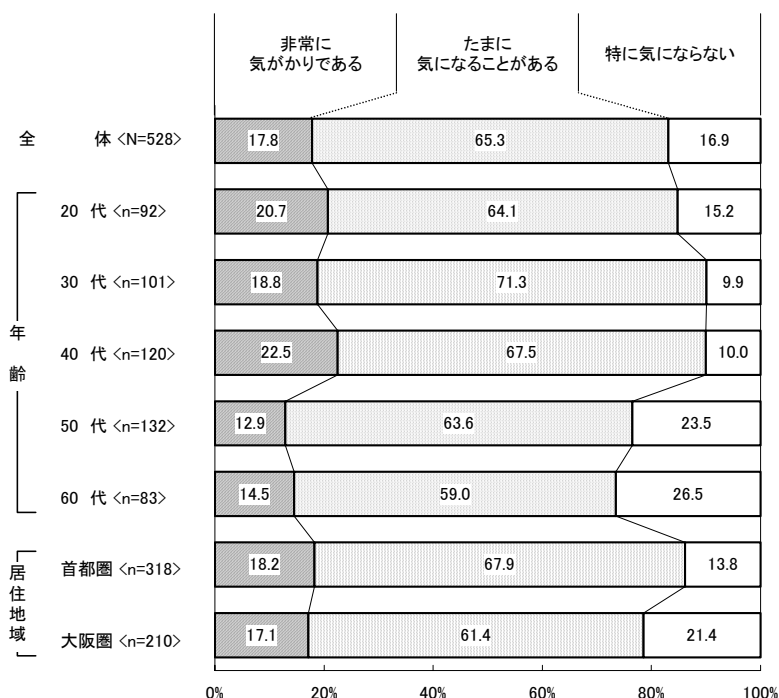
最も多いのは「風邪」(77.5%)で、以下「インフルエンザ」(72.2%)の順となっています。そのほか、「ハウスダストやダニ」(64.0%)、「細菌・カビ」(63.3%)が6割強、「タバコの煙」(41.7%)が4割強あげられています。今年話題となったSARS(重症急性呼吸器症候群)も8位と全体の26.1%の主婦が気になっている結果となりました。

＜冬の部屋の空気で気になるものトップ10＞

順位	項目	割合
1位	風邪	77.5%
2位	インフルエンザ	72.2%
3位	ハウスダストやダニ	64.0%
4位	細菌・カビ	63.3%
5位	タバコの煙	41.7%
6位	ペットの毛、ふけ、臭い	29.9%
7位	花粉	28.8%
8位	SARS(重症急性呼吸器症候群)	26.1%
9位	窒素酸化物や一酸化炭素	19.3%
10位	ホルムアルデヒドなどの有機化合物	15.0%

最も気になる「風邪」や「インフルエンザ」を引き起こすウイルスや細菌について、どの程度気になっているか聞いたところ、「非常に気になる」(17.8%)が2割弱で、「たまに気になることがある」(65.3%)と合わせると8割以上の主婦がウイルスや細菌について気になっている結果となりました。

年代別に見ると<40代><30代>は「たまに気になることがある」(67.5%、71.3%)や「非常に気になる」(22.5%、18.8%)が他の年代を上回っており、<20代>(64.1%、20.7%)も比較的多くなっています。



◆**空気清浄機の機能に対する期待は？～ここ数年で「細菌やカビの除去」や「インフルエンザ等ウイルスの除去」が増える一方、「タバコの煙や臭いの除去」は減る傾向に。**

ここ2～3年で急速に市場が伸びている空気清浄機については、37.7%の世帯が使っているという結果となりました。また使用率は<40代>(42.5%)が高く<大阪圏>(32.9%)に比べ、<東京圏>(40.9%)居住者の方が、使用率が高い結果となりました。

では空気清浄機にどんな機能や効果を期待しているかを聞いたところ、5年以上前に購入した主婦は、「タバコの煙や臭いの除去」(79.2%)が圧倒的に多く、以下、「ハウスダストやダニの除去」(68.8%)、「花粉の除去」(47.9%)と続いていましたが、最近(～1年位前)では「ハウスダストやダニの除去」(58.8%)が最も多くなっています。また今後、期待する機能としては5年以上前では35.4%にすぎなかった「細菌やカビの除去」が77.1%と最も多くなり、18.8%であった「インフルエンザ等のウイルスの除去」も62.1%と部屋の中のウイルスや細菌については年々関心が高くなる結果となりました。

一方、「タバコの煙や臭いの除去」は今後期待する機能や効果の順位では3位と5年以上前の1位、最近(～1年前)の2位と比べると減る傾向になりました。

<空気清浄機に期待する機能や効果 (5年以上前の購入者)>

順位	項目	割合
1位	タバコの煙や臭いの除去	79.2%
2位	ハウスダストやダニの除去	68.8%
3位	花粉の除去	49.1%
4位	細菌やカビの除去	35.4%
5位	癒しの効果	22.9%

<空気清浄機に期待する機能や効果 (～1年前の購入者)>

順位	項目	割合
1位	ハウスダストやダニの除去	58.5%
2位	タバコの煙や臭いの除去	54.7%
3位	細菌やカビの除去	50.9%
4位	花粉の除去	49.1%
5位	癒しの効果	47.2%

<空気清浄機に期待する機能や効果 (今後)>

順位	項目	割合
1位	細菌やカビの除去	77.1%
2位	ハウスダストやダニの除去	76.3%
3位	タバコの煙や臭いの除去	65.5%
4位	花粉の除去	62.5%
5位	インフルエンザ等のウイルスの除去	62.1%

◆風邪の予防対策としてどのようなことを行っているか？

やはり「うがいをする」(84.5%)、「帰宅時に手や顔を洗う」(73.9%)など細菌やウイルスを部屋に持ち込まないようにすることが多く、全ての年齢で高い割合でした。「睡眠不足とならないよう注意する」(65.5%)や「栄養を十分に摂る」(62.9%)なども多く見られました。

部屋の空気に関することに注目すると、「換気に注意する」(55.9%)が最も多く5割を超える方が風邪の予防策として換気を行っているようです。また、「部屋を加湿する」(36.2%)、「部屋を暖かくする」(29.0%)、「空気清浄機で部屋をきれいにする」(21.6%)などがありました。

一方、風邪をひいてしまった時にはどのようなことを行っているか聞いてみると、8割以上が「睡眠時間をたっぷりとるようにする」(82.8%)をあげており、断然多くなっています。

風邪の予防対策と風邪をひいてしまった後の対策を比べてみると、「水分を十分に摂るようにする」「栄養のあるものを摂るようにする」はどちらも高い結果となりました。またお部屋の空気対策でみると、風邪の予防対策では「換気に注意する」、「部屋を加湿する」、「部屋を暖かくする」の順であったのが、ひいてしまった後では「部屋を暖かくする」、「部屋を加湿する」、「こまめに換気する」と逆の順番となっています。

今回の結果では、換気は予防対策として、湿度調節は風邪をひいた後の対策として行われていることが明らかになりました。

<風邪の予防対策>

<風邪をひいた時の対策>

対策	割合	対策	割合
うがいをする	84.5%	睡眠時間をたっぷり摂るようになる	82.8%
帰宅時に手や顔をあらう	73.9%	水分を十分に摂るようになる	69.3%
睡眠不足にならないように注意する	65.5%	栄養のあるものを摂るようになる	68.6%
栄養を十分に摂る	62.9%	体を冷やさないように保温に注意する	52.1%
換気に注意する	55.9%	早めに市販薬をのむ	50.2%
なるべく人混みをさける	39.2%	早めに医院や病院に行く	49.8%
部屋を加湿する	36.2%	部屋を暖かくする	42.2%
衣服や寝具など保温に注意する	32.6%	部屋を加温する	37.9%
部屋を暖かくする	29.0%	病人の部屋をこまめに換気する	21.2%
空気清浄機で部屋をきれいにする	21.6%	空気清浄機で部屋をきれいにする	19.3%
マスクをかける	19.1%	病人の部屋を締め切る(隔離する)	3.8%

◆空気の乾燥する冬場の季節に、部屋の湿度についてどの程度意識をしているか？

「日頃から気を配って実行している」(31.8%)と3割以上の主婦が湿度調節を行っている結果となりました。また、湿度計を持っているか聞いたところ40.7%と約4割の主婦が持っており、湿度に対して高い意識を持っていることがわかりました。

年齢別に見ると、<30代>は「日頃から気を配って実行している」(37.6%)、<20代>は「家族が風邪気味の時などは実行している」(39.1%)が他の年代よりも多く、全体的に若い人の方が“湿度を意識している”と言えるようです。

居住地域別に見ると、<首都圏>は「日頃から気を配って実行している」(34.0%)、「家族が風邪気味の時などは実行している」(37.1%)とともに<大阪圏>(28.6%、32.9%)を上回っており、首都圏に住む主婦の方が湿度に高い意識を持っているようです。

では湿度調節の方法としてどのようなことを行っているのか聞いたところ、最も多いのは「加湿器をつける」(182件)で圧倒的な数となっています。また、「加湿機能付きの暖房器具を使う」(10件)もさほど多くはありませんがあげられています。加湿機能機器の活用が最も中心的方法となっているようです。

そのほかの工夫として、「濡れタオルを部屋にかける」(54件)、「洗濯物を部屋に干す」(46件)といった方法や、「ストーブをやかんを乗せる」(44件)、「お湯を沸かす」(22件)といった方法もあげられています。さらに、「観葉植物を置く」(10件)、「風呂場を少し開けて部屋に湯気を通す」(7件)といったものもあげられています。“冬の部屋の湿度調整”のために、さまざまな工夫を凝らしている様子がうかがわれます。

〈湿度調節の方法〉

方法	数
加湿器をつける	182件
濡れたタオルを部屋にかける	54件
洗濯物を部屋に干す	46件
ストーブをやかんにのせる	44件
お湯を沸かす	22件
換気をする	20件
加湿機能付の暖房器具を使う	10件
観葉植物を置く	10件
風呂場を少し空けて部屋に湯気を通す	7件
水を入れた器をおく	7件

◆風邪をひいた平均回数は？その風邪をうつされた場所、相手は？

家庭における風邪の実態として、家族の中で風邪をひくことが最も多い人が風邪を何回ひいているか聞いてみると、「3～4回」(39.8%)がほぼ4割を占めており最も多くなっています。次いで、「1～2回」(29.7%)、「5～6回」(18.9%)の順となっていますが、「10回以上」(9.3%)も少なくありません。平均回数は4.1回となっています。

年齢別に見ると、<20代>は「3～4回」(39.1%)が最も多いものの「10回以上」(17.4%)も2割近くを占め、平均回数は5.1回と最も多くなっています。<30代><40代>も「3～4回」(40.6%、43.3%)が最も多く、「10回以上」(15.8%、7.5%)も比較的多いなど平均回数はそれぞれ4.8回、4.2回となっています。これに対して<50代><60代>は「1～2回」(43.2%、43.4%)が最も多く平均回数は3.2回、3.4回と、年齢が高くなるほど少なくなっています。

居住地域別に見ると、<首都圏><大阪圏>ともに「3～4回」(34.3%、48.1%)が最も多くなっていますが、平均回数は<首都圏>(4.3回)が<大阪圏>(3.7回)を上回っています。

<最もよく風邪をひく人の風邪を引く回数>

年代	20代	30代	40代	50代	60代	首都圏	大阪圏
平均回数	5.1回	4.8回	4.2回	3.2回	3.4回	4.3回	3.7回

次に風邪をひいた方に、なぜ風邪を引いたか聞いてみると、半数以上が「人にうつされた」(54.6%)と答えており、「自分の不注意」(45.4%)としてののは4割強にとどまっています。

また、風邪をうつされた場所について聞いてみると、「家」(126件)が圧倒的に多く、次に「職場」(32件)、「電車」(10件)、「外出先」(9件)、「病院」(7件)と続きます。

では誰からうつされたのか聞いてみると、「子供(孫)」(80件)が最も多く、次に多いのが「夫」(40件)とまず「子供」が風邪をひき、家族に風邪がうつっていく様子が垣間見える結果となりました。

その他、「職場」で「同僚」(24件)にうつされたり、「電車」や人ごみの中など外出先で「特定多数の誰か」(20件)にうつされたりするケースが多く、病院で「患者」(7件)にうつされるケースもありました。

<風邪をうつされた場所・相手トップ5>

順位	項目	割合	順位	項目	割合
1位	家の中	126件	1位	子供(孫)	80件
2位	職場	32件	2位	夫	40件
3位	電車	10件	3位	同僚	24件
4位	外出先	9件	4位	不特定の誰か	20件
5位	病院	7件	5位	患者	7件

※ 本調査の詳細につきましては、「総合報告書」がございますので下記までご連絡下さい。

～本資料に関するお問合せ～

◆ダイキン工業株式会社 広報部

【本 社】 広報部長 芝 道雄 / 課長 片山 義丈

〒530-8323 大阪府大阪市北区中崎西 2-4-12 梅田センタービル

TEL 06-6373-4348 / FAX 06-6373-4330

【東京支社】 東京担当部長 井上 武郎 / 東京担当 山田 香織

〒163-0235 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

TEL 03-3344-8052 / FAX 03-3344-8021

空気の調査ライブラリーアドレス <http://www.daikin.co.jp/kuuki/index.html>

◆共同 PR 株式会社

担当: 蓮間 崇道・北条 洋寿

〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

TEL 03-3571-5171 / FAX 03-3574-9364